

同窓会会報

熊本大学医学部保健学科 第15号



熊本大学医学部保健学科第16回同窓会総会後記念写真（2019年7月6日）

目次	同窓会会長あいさつ.....	1
	保健学教育部長あいさつ.....	2
	在校生の寄稿.....	3
	同窓会総会議事録.....	4
	特別講演.....	5
	特別企画.....	6
	熊本大学卒業生表彰.....	8
	安田セツ子奨学助成基金 運用開始のご報告...	8
	国家試験合格状況.....	8
	前年度卒業生の進路状況.....	9
	保健学科教員紹介.....	9
	同窓会会則・細則.....	10
	同窓会役員.....	11

2020年度保健学科同窓会総会、 特別講演、懇親会のご案内

日時：2020年7月4日（土）（予定）
14時00分より

場所：熊本大学医学部保健学科

変更の可能性もあるためURLをご覧ください。

熊本大学医学部保健学科同窓会
<http://hoken.kuma-u.jp/index.php>

毎年7月第1土曜日に予定をしています。

後輩の教育研究支援にお力添えください。

保健学科・保健学教育部では、教育・研究の発展のために皆様のご支援を必要としています。別冊子「熊本大学基金」払込取扱票の中段にある寄附目的の「個別事業を特定する」にチェックを入れ、カッコ内に（医学部保健学科教育研究支援事業）とご記入いただき、ご寄付を賜りますようお願い申し上げます。

ご 挨拶

同窓会会長 春 田 昭 一

(済生会熊本病院／医療技術短期大学部衛生技術学科5期)

平素より医学部保健学科同窓会へのご理解とご支援を頂き誠にありがとうございます。

4月に新元号が発表され、新元号令和の時代へと移りました。平成の時代は「天地、内外ともに平和が達成される」という意味をこめられていましたが、熊本地震を始め多くの辛い出来事の記憶が思い起こされるのではないのでしょうか。そして、令和の意味は「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味が込められているそうです。希望に満ち溢れた時代であると同時にまずは平和な時代であることを切に願います。

その令和元年7月6日に第16回総会・特別講演会・懇親会を開催し、総会へ46人、懇親会へ30人の参加を頂き心から感謝申し上げます。今年は新しい時代の始まりでもあります。これまで総会の時に行っておりました卒業生による職場紹介は、新たに特別企画として企画しました。これは検査、放射、看護、それぞれ専攻の立場において相互の役割、業務についての理解と連携を深めて行ければとの思いから、今回は循環器疾患の中から「急性冠症候群についてー検査、放射、看護の立場からー」として3名の卒業生に講演をして頂きました。学生の皆さんにとって、そして、他の専攻の卒業生のみなさんにとっても学術的な交流ができたのではないのでしょうか。次回の同窓会でも新たなテーマに基づいて企画したいと思います。また、特別講演は、熊本のシンボルである熊本城が先の熊本地震により甚大な被害を受けておりますが、熊本城を管理している熊本市経済観光局熊本城総合事務所の城戸秀一様から、地震による被害状況とその後についてお話ししていただきました。

さて、保健学科同窓会は、平成16年の熊本大学の法人化を機に、各学部・学科単位の同窓会を統合した「熊本大学同窓会連合会」を発足し、保健学科同窓会もその構成員となりました。さらに、地域での同窓会活動も活発になり、東京連合同窓会、関西連合同窓会、九州連合同窓会と相次いで発足し、地域での学部・学科を越えた同窓生の情報交換や連携の場になっております。今年は東京連合同窓会が5月18日東京にて、関東地域在住の各学部卒業生との交流が行われました。また、九州連合同窓会は10月5日大分で開催予定でしたが、ラグビーW杯開催により宿泊施設確保が難しいことから10月27日の熊本大学ホームカミングデーと合同開催となりました。大分での開催が見送られたわけですが改めて令和2年5月23日にレンブラントホテル大分での開催となります。大分在住の方を始め、九州地区の卒業生のみなさんの参加をお待ちしております。

また、次回の保健学科同窓会総会は2020年7月4日（土曜日）を予定しております。皆様にお会いできることを楽しみにしております。今後とも同窓会をよろしく願います。

新たな時代を創る卒業生

大学院保健学教育部長・保健学科長 前田ひとみ

熊本大学医学部保健学科同窓会会員の皆様には、オープンキャンパスをはじめ、日ごろから保健学科・保健学教育部へのご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

18才人口の減少に伴って、受験生にとって「行きたい大学」として選ばれる大学作りが求められています。熊本大学の強みとして、専門の基礎を育む保健学科からより高度な実践力・研究力を培う大学院博士後期まで一貫した教育を受けられることが挙げられます。卒業生の活躍は大学の高い評価につながります。新元号になった今年、本学科の卒業生である大野剛助教（医療技術科学分野 医用放射線科学講座）、梶原隆太郎助教（医療技術科学分野 生体情報解析学講座）、田崎雅義助教（医療技術科学分野 構造機能解析学講座）の3名に加えて、新たに福重真美助教（看護学分野 在宅・老年看護学講座）と松尾祐一助教（医療技術科学分野 生体情報解析学講座）を教員としてお迎えしました。なんと5名は全員が保健学科の2回生だそうです。先輩が活躍する姿に触れることは、後輩の夢と希望につながります。同窓会会員と大学との交流の懸け橋となって、保健学科・保健学教育部を発展に導いてくれることを期待しています。

現在の大学の実情として、各国立大学法人の強み・特色を踏まえた大学の機能強化を目的に運営費交付金の評価方法が変更され、外部資金を獲得しなければ教育・研究が成り立たない厳しい状況が続いています。熊本大学では、地域社会と共同し、知の創造、継承、発展を通じて豊かな未来を拓くことを目的とした『熊本大学基金』（<https://www.kumamoto-u.ac.jp/kikin>）が創設されています。その中に保健学科の学生支援、教育・研究助成、教育・研究施設の整備を目的とした「医学部保健学科教育研究支援事業」があります。後輩の学習環境の充実を図るために、多くの皆様からの温かいご寄付を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。なお、ご寄付いただく際には、必ず事業名を「医学部保健学科教育研究支援事業」とご指定下さい。

最後になりましたが、同窓会の発展と同窓生の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

在校生の寄稿

病院で働く助産師に求められることと私の目標～地域母子保健実習での学びより～

看護学専攻 4年 藤島摩耶

地域母子保健実習では、地域における看護職の役割だけでなく、地域と病院との連携を間近で見ることができました。その中で、妊娠期から産後まで継続した支援を行うためには、出産のための短い入院期間の中で、看護職が母親の少し気になる部分に気づき、早期から介入し地域につなげていくことが重要であると学びました。また、心身ともに正常な経過をたどった方であっても必要な支援は勿論あり、育児や産後の生活への不安を抱えたまま地域に帰ることを防ぐために、入院中の関わりは非常に重要だと考えさせられました。出産体験の振り返りや自信を持てるような声掛け、その方に必要な保健指導を見極め介入することは、母子が地域で健やかに生活していくために病院の助産師ができることであり、求められることだと思います。

病棟での実習では疾患を中心に患者を見てしまい、リスクばかりに介入していく傾向があり、もっと1人の生活者としての患者そのものを見る視点が必要であると日々感じていました。今回の実習での学びを受け、その方の思いやニーズに「気づく」ことができるように、日々の中で多くの人と関わりながら、感性を磨いていきたいと思っています。

臨床実習を終えて

放射線技術科学専攻 4年 田辺龍輝

私は、4年次の臨床実習を通して、放射線技師として働くうえで必要となる知識や振舞い方など、多くのことを学ばせていただきました。ただ放射線技師になりたいという理由で入学し、漠然とした日々を過ごしてきた私にとって、理想とする放射線技師像を考える良い機会となり、自分の将来についても考えることが出来ました。

臨床実習をする中で特に感じた点は、コミュニケーション能力の重要性です。もちろん放射線技師として働くうえで専門的な知識やスキルは必要ですが、それと同等以上に重要なのが、このコミュニケーション能力だと感じました。実際に医療の現場で働いている技師の方々は、不安を抱えて検査に臨む患者さんに、やさしく声をかけ、安心して検査に臨んでもらえるように接していました。特に患者さんに笑顔で挨拶をしていたのがとても印象的でした。私も患者さんに寄り添い、少しでも不安を取り除くことが出来るような放射線技師を目指したいと思っています。

10週にわたる臨床実習を通して、私は多くのことを学ばせていただきました。それは単に専門知識だけではなく、患者さんと実際に接する中での振舞い方や話し方など、人間的に成長できる部分が多くありました。最後に今回の臨床実習でご指導いただいた放射線技師の方々に感謝し、理想とする放射線技師を目指したいと思っています。

大学生活を通して

検査技術科学専攻 4年 野村朋美

この4年間の大学生活は毎日たくさんの刺激を受け、学業だけでなく人との関わり合いや社会のことなど多くのことを学ぶことができました。大学生になって一人暮らしを始め、アルバイトやサークル活動を両立させ、時には上手くいかないこともありましたが、その分楽しいことや新しい発見がたくさんありとても充実した生活を送ることができました。その中でも臨地実習の経験は私にとってとても大きな経験でした。実際に患者さんの検査結果や検査の様子を見学したり、技師の方に直接指導していただきながら、分からないことをたくさん質問したりして、自らの目で見て触れて体験したことで今まで学習していたことが関連しあい納得のいく理解ができました。また、常に患者さんを第一に考え、高い知識や技術を身につけるため努力をし、患者さんの命に関わる仕事をしているという責任感と誇りをもって仕事をされている技師の方々の姿に感銘を受けました。

この4年間の経験全てが生かされた結果、大学生活の大きなゴールの一つである、就職の内定を私の第一志望である病院からいただくことができたと考えています。残りの大学生活を悔いのないよう充実した日々にするとともに、臨床検査技師として働き始めてからも努力をし続け多くのことを学んでいきたいです。

大学院での研究生活

大学院保健学教育部 博士前期課程 2年 久保田貴大

私は、保健学科を卒業後、そのまま大学院に進学しました。大学院への進学者は年々増加していますが、それでも同級生の4分の1程度でした。その状況で、進学を決めたのは、研究を遂行できる力を身につけたいと思ったからです。

私の所属する研究室では、週に1回抄読会を行っています。そこでは、学生が英語の先行論文を紹介します。さらに日頃の研究の進捗状況を報告し、議論をしながら研究を進めていきます。学部3年生で初めて参加したときは、先輩方が何を言っているのかわからず、ついていくのに精一杯でした。さらに、自分が論文を紹介した際、先生方から質問されたことに答えることができず、悔しい経験もしました。しかし、回数を重ねるごとに、論文のどの部分がポイントなのかわかり、説明することができるようになりました。

どんなときでも毎日研究室に通い、研究を進めることは大変でした。しかし、大学院に進学せず病院に就職した同級生らは、臨床現場で診療技術を向上させているので、その分研究だけは負けられないという思いから、必死に頑張りました。その結果、アメリカでの国際学会発表や、ヨーロッパの医学物理雑誌への論文投稿という貴重な経験をすることができました。

放射線技師には、病院での診療業務に加え、研究を行い医療に貢献することが強く求められていると思います。大学院での経験を活かし、病院に就職しても研究を続け、将来の放射線技術学に貢献したいです。

第16回熊本大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日 時 令和元年7月6日(土) 14:00~17:00
 場 所 熊本大学医学部保健学科C503(5F)
 出席者数 38名(議事の際)、総数:46名
 議 長 福山美季(熊本大学医学部保健学科)

<総会式次第>

開会の辞
 同窓会会長挨拶
 保健学教育部長挨拶
 議長選出
 議事

1. 平成30年度事業及び会計に関する報告
 - ① 事業報告
 - ② 決算報告
 - ③ 監査報告
 2. 令和元年度事業計画(案)
 3. 令和元年度予算(案)
 4. その他
- 閉会の辞

【議事要旨】

14時、羽手村副会長より開会が告げられ第16回同窓会総会が開会された。



最初に、春田会長が会を代表して挨拶を行い、続いて前田熊本大学大学院保健学教育部長のご挨拶が行われた。その後、福山美季先生(熊本大学医学部保健学科)が総会議長に選出され、議事に従い4項目の議案の審議が行われた。

1. 平成30年度事業報告及び会計に関する報告

春田会長より保健学科のオープンキャンパスへの支援や同窓会会報第14号発行、第15回同窓会連合会への参加、卒業生表彰等、1年間の事業が報告された。松本会計幹事より30年度の会計について決算状況が報告された。その後、橋田監事より平成30年3月28日に行った会計の監査結果について、適正であったとの報告が行われた。質疑応答では特に質問はなく、平成30年度事業報告、決算報告



総会風景

並びに会計監査報告は賛成多数で承認された。

2. 役員について

春田会長より、令和元年度からの役員について報告があった。

3. 令和元年度事業計画(案)について

春田会長より、令和元年度事業計画(案)について説明があった。

4. 令和元年度予算(案)について

令和元年度予算(案)について松本会計幹事より説明があった。質疑応答では特に質問はなく、その後、採決を行い、参加者の賛成多数で令和元年度事業計画(案)、令和元年度会計予算(案)は承認された。

以上で、議案審議が全て終了し、議長は、降壇した。

最後に、羽手村副会長より閉会の挨拶があり、同窓会総会は、14時26分に終了した。

次に特別企画において、看護学専攻 廣瀬先生、放射線技術科学専攻 有村先生、検査技術学専攻 福重先生からご講演頂いた。

最後に特別講演として熊本市経済観光局熊本城総合事務所 城戸秀一様より「熊本城の地震被害と復旧状況について」と題したご講演を頂き、その後、懇親会が行われた。

令和元年7月6日
 議事録署名人 梶原隆太郎



懇親会風景

特別講演

熊本城の地震被害と復旧状況について

○被害状況

熊本県は2016年4月14日と16日、2度の震度7の地震に見舞われました。この大きな地震により益城町、阿蘇市、熊本市周辺を中心に甚大な被害を受けました。



被災直後の北十八間櫓

熊本城でもその被害は甚大で、城内の建造物や石垣が被災しました。

国指定重要文化財の東十八間櫓と北十八間櫓は被害が大きく、建造物下部の

高石垣と共に倒壊したため、石垣の下方まで滑り落ち、地震前とはまるで違う姿になってしまいました。



被災直後の飯田丸五階櫓

天守閣は多くの瓦が落下、下部の石垣が崩壊するなどの被害を受けました。飯田丸五階櫓は南・東面の石垣が崩壊し、南東の隅の石垣のみが残り、かろうじて倒壊を免れました。

さらに、城内各所で石垣も崩壊しており、移動することすら難しい場所もありました。

もともとお城は石垣や堀、階段などによって攻められにくく造られています。被災でさらに進入が困難になっており、復旧工事もどのように攻めていくのか、非常に難しい状況でした。



被災直後の頼当御門周辺

○復旧の方針

石垣も建造物も地震直前の状態に復旧することが原則です。崩れた石垣は石材一つ一つに番号を付けて、被災前の写真と見比べながら、パズルを組み合わせるように元の石を元の位置に積み直していきます。建造物も同様で、元の部材を元の位置に使用して復旧していきます。とても時間のかかる作業ですが、文化財の価値を損ねな

熊本市経済観光局熊本城総合事務所 城戸 秀一

いように、丁寧に復旧を進めていきます。

○復旧状況とスケジュール

被害が大きかった重要文化財建造物は解体し部材回収・保管を行っており、利用できる部材は全て再利用します。長塀は現在復旧工事を実施中で、2020年度（令和2年度）末に完成予定です。



天守閣（2019年8月時点）

天守閣は2017（平成29年）年4月から本格的な復旧を開始し、順調に進んでいます。

2019（令和元年）年10月には大天守外観復旧を記念し、原則日曜・祝日限定ですが、城内の一部の特別公開を予定しています。（公開範囲・時間などは曜日・時期により異なります。）その後、2021年（令和3年）の春には大小天守の全ての工事完了を予定しており、準備期間を経て、天守閣の内部まで公開できるように全力で取り組んでいるところです。



特別見学通路鳥瞰図

これまで城内で多くの工事を実施してきましたが、現在の主なものとして、地上約6mの高さから城内を見ることができ「特別見学通路」

の整備も進めており、2020年度（令和2年度）の春から公開を予定しています。

着実に復旧を進めていますが、熊本城の完全復旧まではまだまだ長い時間がかかります。今後も多くの方々の温かいご支援への感謝を忘れることなく、1日も早い復旧を目指して進んでいきたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

*本来であれば特別講演の講師をしていただいた方には講演料をお渡しすることになっておりますが、城戸様におかれましては、講演料を辞退されました。同窓会では講演料を「熊本城復興城主」として寄付いたしましたことをご知らせいたします。

特別企画

急性冠症候群～検査技師の立場から～

済生会熊本病院 福重 翔太（保健学科検査技術科学専攻2期）

急性冠症候群（ACS）は、冠動脈粥腫（プラーク）の破綻とそれに伴う血栓形成により冠動脈の高度狭窄または閉塞をきたし急性心筋虚血を呈する病態で、不安定狭心症（UAP）、急性心筋梗塞（AMI）、虚血による心臓突然死を包括した疾患概念である。その死亡率は医療の発達により年々低下しているものの、今尚、心不全に次ぐ第二位である。

急性冠症候群ガイドライン（2018改訂版）でAMIは、



急性期の診断・治療の進め方の違いからST上昇型心筋梗塞（STEMI）と非ST上昇型心筋梗塞（NSTEMI）に分類される。その診断は第一段階

として問診・身体所見・12誘導心電図、第二段階として採血（心筋バイオマーカー）・画像検査（心エコー・胸部レントゲン）と記載され、臨床検査技師は心電図・採血・心エコーを担っている。とりわけNSTEMIにおける採血（心筋バイオマーカー）はそのリスク評価を行う上で非常に重要である。

今回の講演では、①心筋梗塞の一例 ②心筋バイオマーカー ③心エコーで見られるインパクトのある合併症を紹介した。

①救急外来に胸痛を主訴に搬送された症例をモデルに、診断から治療までの一連の流れを紹介した。本症例は、12誘導心電図でⅡ、Ⅲ、aV_F、右誘導V3_R～V6_RのST上昇を認め、右室梗塞が疑われた。心エコー図検査では、下壁および右室自由壁の高度収縮低下を認め、冠動脈造影では右冠動脈#1の完全閉塞を認めた。臨床診断は急性心筋梗塞（RCA#1）であった。

②心筋バイオマーカーは心筋の障害により逸脱した物質が血中で上昇する変化を検出するもので、NSTEMI診断には欠かせない検査である。なかでもトロポニンIの特異度はH-FABPの1.5～2倍程度との報告もあり、トロポニンIが高頻度に用いられている。

③急性心筋梗塞のインパクトのある合併症として実際に経験した症例から、心尖部血栓、乳頭筋断裂、心室中隔穿孔、虚血性僧帽弁逆流症を提示し、心筋梗塞によって引き起こされる収縮異常、心筋障害、機能障害を紹介した。

急性冠症候群 ～診療放射線技師の立場から～

済生会熊本病院 有村 大喜（保健学科放射線技術科学専攻1期）

急性冠症候群（ACS）とは、冠動脈粥腫（プラーク）の破綻とそれに伴う血栓形成により冠動脈内腔が急速に狭窄・閉塞し、心筋が虚血、壊死に陥る病態を示します。

ACSの診断として、心電図変化が最も重要となります。持続的ST上昇を認めればST上昇型心筋梗塞（STEMI）の診断となり、一刻も早く治療が必要となります。

今回は、経皮的冠動脈形成術（PCI）について説明をしたいと思います。PCIは現在、心筋梗塞の急性期治療として広く受け入れられており、発症12時間以内の有用性も確立しています。いかに迅速に、且つ確実に合併症無く冠動脈の血流を回復させるかが治療のポイントとなります。PCIには、医師、看護師、診療放射線技師、臨床工学技士などがチームとなり、治療に当たります。

PCIは、①動脈穿刺、②カテーテルを冠動脈に入れ造影（診断）、③バルーン、ステントにより血管を拡張（治療）、という流れで進みます。①動脈穿刺では通常橈骨

動脈を選択します。侵襲性が低く、止血も容易なためです。橈骨動脈が刺せない場合には大腿動脈（鼠径）や、上腕動脈（肘）などが選択肢に上がります。②診断では、カテーテルを左右冠動脈の入口部に入れ、直接造影剤を注入することで血管の狭窄部位を特定します。また、最近では、冠動脈造影と併せて、血管内超音波（IVUS）によりプラークの性状や、血管径・病変長も評価します。③IVUSの結果を元に、血管径、病変長に合わせたサイズのバルーン、ステントを用いて血管拡張を行います。治療後、冠動脈造影、IVUSにより術後評価を行い、充



分な血管拡張、冠動脈の再灌流が得られれば治療終了となります。

術後は、ステント部分に再狭窄がないか経過観察をしていきます。冠

動脈造影か、冠動脈CTが主に用いられます。近年は特に低侵襲で、診断精度も高い冠動脈CTが多く施行されています。診療放射線技師はCT撮影、3D画像作成、読影レポートの補助など、非常に重要な役割を担っております。

余談ではありますが、救急患者が胸痛で運ばれてく

る、となった場合、まずACSを疑いますが、心電図変化が無かった場合は非心臓疾患の可能性も高くなりますので、CT検査が非常に有用です。肺塞栓症、気胸、肋骨骨折など多くの非心臓疾患はCTで鑑別が可能です。

以上、ACSに対する診療放射線技師の関わりとして、PCI、術後の経過観察についてお話させていただきました。

急性冠症候群について～看護師の立場から～

熊本大学病院 廣瀬真理子（医療技術短期大学部看護学科21期）

私は、現在熊本大学病院の東病棟6階心臓血管外科に勤務しております。今回ACSについて看護師の立場からお話しをする機会を頂き、ありがたく思っております。

まず、心臓のポンプ機能や血液は心臓から体循環・肺循環の2つの経路で全身の血管を巡っていること、心臓は冠動脈に栄養されていることは、学生時代に学びましたが、私は循環器領域に勤めてから血液が全身を巡ることのありがたさを痛切に感じております。

テーマであるACSとは、急性冠動脈症候群と言い、以下の3つ①ST上昇型心筋梗塞（STEMI）②非ST上昇型心筋梗塞（NSTEMI）③不安定狭心症（UAP）に分類され突然死なども含みます。臨床では、「症状（胸痛など）」「12誘導心電図の変化」「血中トロポニン値の上昇」のうち2つ以上満たせばACSと診断されます。急性冠症候群ガイドライン2018年改訂版にある通り、患者の症状を捉え、12誘導心電図を取り、採血を行う全てのプロセスに看護師は関わります。フィジカルイグザミネーション、12誘導心電図や採血を実践し早急に医師に相談する判断が重要です。そして、看護師は緊急でカテーテル検査・治療を行うかどうか不確定な状況にある患者・家族に寄り添います。採血を嫌がる患者には、この採血がどんなに大事なことか説明するでしょう、緊張や不安の強い患者には体をさすり、救急車の要請はよい判断であったことを伝え、私たちが最善を尽くしていることを伝えるでしょう、またカテーテル室の看護師や臨床工学士など多職種には状況を伝達し可能な限り準備を進めます。

一体的なSTEMI治療システムの構築により心筋へのダメージが少なく済む患者も多いなか、私が経験した広範囲心筋梗塞により救急搬送された症例は、職場で発見されるまでに時間がかかり広範囲の心筋壊死と腎臓の臓器障害が残りました。この経験は私たちにとって、身体的・心理的危機状態にある患者の援助方法や苦痛緩和と安楽ケア、



死と向き合う患者への援助を再考する機会となりました。また、回復過程では、生活機能の再構築や耐性を拡大する心臓リハビリを多職種で取り組みました。患者が回復していくことは看護師にとって喜びであった一方で、もっと早くに何とかできなかったのかと悔やまれました。できるだけ早く搬送し迅速な診断・治療がいかに重要かを学んだ事例でした。この経験を活かして、今後も患者が可能な限り回復していくために、看護師としては何ができるのか探求していきたいと思っております。



— 最後にコーディネーターの増永理事より —

急性冠症候群について、検査、放射、看護の各立場から話を聞くことができた。検査が診断に、放射が治療・評価に、看護は全てのプロセスに渡って患者のケアに関わっている。そして、他職種とともに連携を取りながらチーム医療として診療に貢献している。学生たちにもチームとしての医療が理解できたと思う。

熊本大学卒業生表彰

令和元年度熊本大学卒業生表彰の表彰式が、10月27日の第14回ホームカミングデーにて開催されました。この表彰は、熊本大学の発展又は社会からの理解促進につながる顕著な功績のあった本学卒業生に対し、学長が行うもので、今回は第8回になります。

本年度、保健学科同窓会より以下の方が表彰されました。

石井 洋三様（熊本大学医学部附属衛生検査技師学校 昭和43年卒業）



第8回卒業生表彰者（令和元年度）

安田セツ子奨学助成基金 運用開始のご報告

昨年の同窓会会報（第14号）でお知らせしました「安田セツ子奨学助成基金」の運用を開始し、2019年度第1回目の助成を行いました。保健学科掲示板にて、在校生のみなさんへ基金設立の目的などを含めた募集要項を掲示し、役員会での検討を経て奨学生が決定されました。基金の原資をご寄附くださいました安田様ならびにご家族へ厚くお礼申し上げますとともに、今後も引き続き有効な運用を検討してまいります。



国家試験合格状況

平成31年3月

試験種類	受験年度	本学新卒者			全国（含既卒者）		
		受験者数 （人）	合格者数 （人）	合格 率 （%）	受験者数 （人）	合格者数 （人）	合格率（%） （うち新卒者）
看護師	26	70	69	98.6	60,947	54,871	90.0 (95.5)
	27	69	69	100.0	62,154	55,585	89.4 (94.9)
	28	66	66	100.0	62,534	55,367	88.5 (94.3)
	29	67	67	100.0	64,488	58,682	91.0 (96.3)
	30	70	69	98.6	63,603	56,767	89.3 (94.7)
保健師	26	74	74	100.0	16,622	16,517	99.4 (99.6)
	27	28	28	100.0	8,799	7,901	89.8 (92.6)
	28	19	19	100.0	7,590	7,172	90.8 (94.5)
	29	20	20	100.0	8,191	6,666	81.4 (85.6)
	30	20	20	100.0	8,376	6,852	81.8 (88.1)
助産師	26	10	10	100.0	2,037	2,034	99.9 (99.9)
	27	16	16	100.0	2,008	2,003	99.8 (99.8)
	28	13	12	92.3	2,053	1,909	93.0 (93.2)
	29	11	11	100.0	2,230	2,201	98.7 (99.4)
	30	10	10	100.0	2,105	2,096	99.6 (99.9)
診療放射線技師	26	42	39	92.9	2,839	2,094	73.8 (85.2)
	27	37	34	91.9	3,016	2,377	78.8 (90.9)
	28	35	34	97.1	2,939	2,511	85.4 (96.0)
	29	34	31	91.2	2,971	2,237	75.3 (84.8)
	30	41	41	100.0	3,202	2,537	79.2 (89.4)
臨床検査技師	26	37	36	97.3	4,298	3,528	82.1 (93.8)
	27	47	43	91.5	4,400	3,363	76.4 (87.4)
	28	34	31	91.2	4,739	3,729	78.7 (89.9)
	29	37	34	91.9	4,829	3,828	79.3 (90.5)
	30	39	36	92.3	4,817	3,620	75.2 (86.5)

平成30年度卒業生の進路状況等について

R1.5.1

看護学専攻（卒業生71名）		
(就職)		
熊本大学病院	熊本県	15
熊本赤十字病院	熊本県	3
医療法人社団愛育会 福田病院	熊本県	4
社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院	熊本県	6
済生会みずみ病院	熊本県	1
熊本県庁	熊本県	2
熊本市役所	熊本県	4
江南病院	熊本県	1
宇土市	熊本県	1
国立病院機構九州グループ	熊本県	1
九州大学病院	福岡県	4
福岡大学病院	福岡県	1
福岡赤十字病院	福岡県	1
独立行政法人国立病院機構九州医療センター	福岡県	1
産業医科大学病院	福岡県	1
福岡和白病院	福岡県	1
福岡市役所	福岡県	1
北九州市	福岡県	1
福岡市立こども病院	福岡県	1
飯塚病院	福岡県	1
大分大学医学部附属病院	大分県	2
都城市役所	宮崎県	1
鹿児島大学病院	鹿児島県	1
奄美市役所	鹿児島県	1
琉球大学医学部附属病院	沖縄県	1
徳島大学病院	徳島県	1
神戸大学医学部附属病院	兵庫県	1
兵庫県立こども病院	兵庫県	1
長野市市民病院	長野県	1
東京大学医学部附属病院	東京都	1
慶應義塾大学病院	東京都	1
東邦大学医療センター大森病院	東京都	1
賛育会病院	東京都	1
医療法人徳洲会東京西徳洲会病院	東京都	1
吉祥寺病院	東京都	1
医療法人社団日心会総合病院 一心病院	東京都	1
自営業		1
就職小計		69
(進学)		
佐賀県立総合看護学院	佐賀県	1
進学準備		1
進学小計		2

放射線技術科学専攻（卒業生41名）		
(就職)		
社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院	熊本県	3
熊本赤十字病院	熊本県	1
熊本地域医療センター	熊本県	2
芳和会 くわみず病院	熊本県	1
医療法人桜十字病院	熊本県	1
済生会福岡総合病院	福岡県	1
小倉記念病院	福岡県	1
福岡大学病院	福岡県	1
飯塚病院	福岡県	1
国立病院機構九州グループ	佐賀県	1
川南病院	宮崎県	1
千代田病院	宮崎県	2
宮崎市郡医師会病院	宮崎県	1
鹿児島市立病院	鹿児島県	1
博愛会相良病院	鹿児島県	1
米盛病院	鹿児島県	1
鹿児島大学病院	鹿児島県	1
国立病院機構中国四国グループ	山口県	1
山口県済生会下関総合病院	山口県	1
広島大学病院	広島県	1
大阪市立大学医学部附属病院	大阪府	1
一般財団法人住友病院	大阪府	1
京都大学医学部附属病院	京都府	1
JCHO大和郡山病院	奈良県	1
キャノンメディカルシステムズ	栃木県	1
就職小計		29
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	11
その他（進学準備等）		1
進学小計		12

検査技術科学専攻（卒業生39名）		
(就職)		
社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院	熊本県	4
熊本赤十字病院	熊本県	2
くまもと森都総合病院	熊本県	1
熊本回生会病院	熊本県	1
熊本県総合保健センター	熊本県	1
JCHO 熊本総合病院	熊本県	1
整形外科井上病院	熊本県	1
JCHO 人吉医療センター	熊本県	1
福岡市役所	福岡県	1
済生会福岡総合病院	福岡県	2
久留米大学病院	福岡県	2
小倉記念病院	福岡県	1
原三信病院	福岡県	1
九州中央病院	福岡県	1
新古賀病院	福岡県	1
福岡新水巻病院	福岡県	1
JCHO 湯布院病院	大分県	1
宮崎県庁	宮崎県	1
古賀総合病院	宮崎県	1
宮崎市郡医師会病院	宮崎県	1
社会医療法人天賜会中央病院・中央クリニック	鹿児島県	1
沖縄県病院事業局	沖縄県	1
福山臨床検査センター	広島県	1
半田市医師会健康管理センター	愛知県	1
日本医学臨床検査研究所	京都府	1
L S I メディエンス	東京都	3
自営業		1
未定（資格試験受検準備）		2
就職小計		37
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	2
進学小計		2



保健学科教員紹介

(令和元年9月現在)

◆看護学専攻

【基礎看護学・看護教育学講座】

教授：前田ひとみ
准教授：松本智晴
講師：永田まなみ
助教：南家貴美代

【在宅・老年看護学講座】

准教授：安武 綾
助教：福重真美

【臨床看護学講座】

教授：河野宏明 國府浩子 三笠里香
准教授：柗中智恵子
助教：樋口有紀 小濱京子 福山美季

【女性健康科学・小児看護学講座】

教授：田代浩徳
准教授：坂梨京子
講師：寺岡祥子 生田まちよ
助教：島田久仁子 吉田佳代

【公衆衛生看護学講座】

教授：大河内彩子
助教：金森弓枝

◆放射線技術科学専攻

【医用画像科学講座】

教授：白石順二 富口静二
准教授：内山良一 米田哲也 藤原康博
助教：辻田直子

【医用放射線科学講座】

教授：荒木不次男 伊藤茂樹 船間芳憲
村上龍次
准教授：坂本 史
助教：大野 剛

◆検査技術科学専攻

【構造機能解析学講座】

教授：大林光念 柳沼裕二 吉永一也
講師：伊藤雅浩
助教：橋本弘司 田崎雅義

【生体情報解析学講座】

教授：大坪和明 大森久光 奥宮敏可
畑 裕之
助教：梶原隆太郎 森 信子 松尾祐一

熊本大学医学部保健学科同窓会会則・細則

熊本大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、熊本大学医学部保健学科同窓会（以下「本会」という。）と称する。
- 第2条 本会は、事務局を熊本市九品寺4丁目24番1号熊本大学医学部保健学科に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その教育の支援と発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 一 会員相互の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の教育の支援・発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 熊本大学医学部附属看護学校、熊本大学医学部附属助産婦学校、熊本大学医学部附属エックス線技師学校、熊本大学医学部附属診療放射線技師学校、熊本大学医学部附属衛生検査技師学校、熊本大学医学部附属臨床検査技師学校を卒業又は在籍した者
 - ロ 熊本大学医療技術短期大学部を卒業又は在籍した者、熊本大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻を修了又は在籍した者、熊本大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程を卒業又は在籍した者
 - ハ 熊本大学医学部保健学科（以下「本学科」という）を卒業又は在籍した者並びに在学生
 - ニ 熊本大学大学院保健学教育部（以下「大学院」という）を修了又は在籍した者および在学生
 - 二 特別会員
 - イ 本学科教員
 - ロ 本学科及び前項の学校の元教員
 - ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者

- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員は、会費（終身）として1万円を本学科入学および大学院入学時に納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費、その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 2名
 - 三 理事 12名
(看護6名、衛生3名、放射3名)とする。
 - 四 幹事 7名
 - 五 会計 2名

- 六 監事 2名
- 第11条 役員は次の職務を行う。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
 - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
 - 五 会計は、本会の会計事務に当たる。
 - 六 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 理事は、正会員の中から専攻毎に選出し会長が委嘱する。
 - 四 幹事は、会員の中から会長が委嘱する。
 - 五 会計は、正会員の中から会長が委嘱する。
 - 六 監事は、理事会において正会員の中から推薦し、会長が委嘱する。
- 第13条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、保健学教育部長を推戴する。
- 第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
- 一 事業及び決算報告
 - 二 事業計画及び予算
 - 三 会則の制定及び改廃
 - 四 役員の選出
 - 五 顧問の推挙
 - 六 その他の必要と認める事項
- 2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
- 第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。
- 第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
- 第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
- 第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。
- 第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
- 第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。
- 第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。
- 第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
- 第25条 理事会は、会長が召集し、議長は会長がこれにあたる。
- 第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
- 第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会 計

第28条 本会の経理は、会費及び寄付金、その他の収入を持って充てる。

第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附 則 この会則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

熊本大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 1 同窓会費は1万円とし、本学科入学および大学院入学時に一括納入することを原則とする。
- 2 本学科同窓会費は、同窓会運営費として使用する。運営費以外に使用する場合は、同窓会理事会の承認を必要とする。
- 3 旅費に関しては、旅費規程に則って支給する。
- 4 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
- 5 金融機関に同窓会の口座を設け、会計が通帳・印鑑を管理する。
- 6 同窓会費の徴収は、入学時に行い、徴収後は速やかに同窓会費支払者名簿を作成する。
- 7 会計は、会計年度終了時に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
- 8 本細則の改正は、同窓会総会で行う。

附 則 この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成25年4月1日から施行する。

編 集 後 記

同窓生におかれましては、本年も同窓会総会に多数ご臨席賜り、厚く御礼申し上げます。在校生にとっては、卒業生と触れ合える唯一の機会ということで、毎年、楽しみにしております。情報化社会により、インターネットで簡単に就職を目指す病院や企業の情報を入手できるようになりました。しかし、そこで得られる情報は、非常に限られたものです（本人たちは気が付いていないかもしれませんが…）。卒業生から直接教えてもらえる、“病院の雰囲気や業務内容、卒業後のキャリア形成の仕方”など、在校生にとっては、将来を考える上で、極めて貴重な情報となります。私が学生の頃は、就職されている先輩方とお話する機会が乏しく、どのように未来を切り開けばよいか、悩んだことを記憶しております。卒業生の皆様には、同窓会総会に参加し、在校生が社会人としての一歩を踏み出すための手助けをして頂きますと幸いです。

来年の同窓会総会は、例年通り7月4日（第一土曜日）に開催予定です。皆様にとって有意義な総会となりますよう、ユニークな企画を練って参ります。在校生は、皆様にお会いし、話ができることを楽しみにしております。多くの卒業生のご参加をお待ちしております。

（保健学科同窓会役員：田崎雅義 辻田直子 島田久仁子）

令和元年度熊本大学医学部保健学科同窓会役員

名誉会長：前田ひとみ（熊本大学大学院保健学教育部長・保健学科長）

会 長：春田昭一（済生会熊本病院）

副 会 長：羽手村昌宏（熊本大学病院）

溝上幸洋（くまもと森都総合病院）

理 事：

（看護）山本治美（熊本大学病院）

田中紀美子（元九州看護福祉大学）

小菌真知子（熊本保健科学大学言語聴覚学専攻）

片平起句（医療法人社団愛育会福田病院）

宮里邦子（元九州看護福祉大学）

福重真美（熊本大学医学部保健学科）

（放射）荒木不次男（熊本大学医学部保健学科）

有村大喜（済生会熊本病院）

大野剛（熊本大学医学部保健学科）

（検査）増永純夫（熊本中央病院検査科・病理研究科）

前田浩（熊本市民病院中央検査部）

片淵達也（熊本大学病院）

幹 事：

（看護）富永圭亮（熊本大学病院）

島田久仁子（熊本大学医学部保健学科）

（放射）辻田直子（熊本大学医学部保健学科）

（検査）田崎雅義（熊本大学医学部保健学科）

梶原隆太郎（熊本大学医学部保健学科）

高島裕子（元熊本大学医学部附属病院医療技術部）

会 計：松本佳代（熊本保健科学大学看護学科）

吉田佳代（熊本大学医学部保健学科）

監 事：益田美奈子（鶴田病院）

橋田昌弘（帝京大学福岡医療技術学部）

東京連合同窓会幹事：

松下洋一（株式会社バイオトクステック）

九州連合同窓会幹事：

春田昭一（済生会熊本病院）

松本佳代（熊本保健科学大学看護学科）



看護職員募集 熊本大学病院看護部

熊本大学医学部保健学科同窓生の皆様へ
“私たちと一緒に働きましょう”

私たちの病院は、看護職員一人ひとりが専門職としての能力向上につながるキャリア開発支援と活き活き働き続けられる職場づくりを目指しています。

病院も再開発が進み新しくなりました。学生時代に学んだ熊大病院で看護をしてみませんか。
詳細はホームページをご覧ください。

